

『僕が一番欲しかったもの』 を振り返って・・・

今回の道德のテーマは『あたたかい人間愛・思いやり』。授業で紹介したのは、歌手槇原敬之さんの「僕が一番欲しかったもの」という曲でした。とても素敵なものを拾って喜んでいたら、僕以上にそれを必要としている人に出会った。惜しいような気もしたけれど、僕はそれをあげることにした。すると、その人は何度も「ありがとう」と嬉しそうに僕に笑ってくれた。そんなことをくり返して、結局僕は最後まで何も見つけれなかったな。と思っていたら、最後に「今までで一番素敵なもの」との出会いが…。「僕が一番欲しかったもの」という曲の歌詞を元に、東日本大震災のときに起きた出来事などを振り返り、それぞれの考えを深めました。

<みんなの感想より>

- 誰かがいるから、自分が普通にいれる。そして、どこかの誰かは自分の助けを必要としているかもしれない。助け合いとか絆ってというのは、本当に大事ななぁと思った。人間は強いようでいろんなところが弱いから、助け合いっていう行動や言葉があるんじゃないかな。
- 助け合いや思いやりの大切さについて改めて考えさせられた。優しさを持っている人は、やっぱり僕はカッコいいと思うし、とても尊敬する。将来は、そういう人を目指していきたい。
- 誰かを笑顔にするためには、自分が笑顔でいることだと思った。私は、笑顔はつながっていくものだと思う。笑っている人を見たら、なんだか自分まで楽しくなってきた、嬉しい気持ちでいっぱいになる。だから私は、周りを明るくできる、そんな存在になりたい。
- 「誰かのために」と考えてしまうと難しいことなのかもしれないけれど、「自分にできること」をするのは実は簡単なことだと思う。自分の大切な人を笑顔にできるように頑張りたい。
- 一緒にそばにいてあげるだけで、笑顔にできることもあると思う。一番簡単な方法は、「感謝」の気持ちを伝えること。意外と「ありがとう」と言われると嬉しくて、自然と笑顔になってしまうと思う。だから自分も、みんなを笑顔にできるように頑張りたい。
- 「誰かを笑顔にするために、自分にできることは何か？」と聞かれたときに、簡単に答えられそうなのに、意外と難しいなと思いました。でもこれを考えることこそが、一番大切なのではないかなとも思いました。人には絶対「優しさ」があると思うから、その優しさで誰かを笑顔にすることはできるのかなと思いました。
- こういうことは、自己犠牲や自己満足という言葉で終わってしまう話なのかもしれないけど、そういう一言で済ませてしまったら、本当に困った時にとても後悔すると思う。でも、だからといって無理な自己犠牲も良くはない。助け合って、支え合ってこそ人は生きていけると思うから、できる限りで良いから、困っている人に手を差し伸べるからこそ、僕は本当の優しさだと思う。

人っていう生き物は、どうしても自分を中心に考えてしまうときがあります。

みんなは、どうでしょうか？

学校生活や友達との関係、家族…。

でも、そんなときにふと立ち止まって、相手の気持ちになって、考えることができたとしたら、本当に大切なものが何なのかが、見えてくるのではないのでしょうか。

人間は、決して一人では、生きていくことはできません。

みんながここまで大きく成長できたのも、必ず誰かの支えがあったはずです。

6年前の東日本大震災のとき、「がんばろう、日本。」を合言葉に、「誰かのために…」という思いで助け合い、支え合っているたくさんの人たちの姿がありました。

「誰かを笑顔にするために、今自分にできること。」

卒業まで、あともう少し。

みんなには、これからもこの言葉をいつも考えて行動できる人になってほしいと思います。

僕のあげたもので

たくさんの人が幸せそうに笑っていて

それを見たときの気持ちが

僕の探していたものだ分かった

僕が一番欲しかったもの／槇原敬之

